

環太平洋地域緊急時対応研究会議に参加しました（2018/9/25-26）

テーマ：環太平洋地域緊急時対応研究ネットワーク/関係者会議

場所：ワシントン大学看護学科（Seattle、アメリカ合衆国、<https://nursing.uw.edu/>）

2018年9月25日(火)～26日(水)の2日間、ワシントン大学看護学科（シアトル、米国）において第1回 Pacific Rim Clinical Emergency Preparedness Research Network / Stakeholders Meeting（環太平洋地域緊急時対応研究会議）が開催され、当研究所の奥山純子助教（災害医学研究部門）とマリ・エリザベス助教（人間・社会対応研究部門）が参加しました。

環太平洋地域緊急時対応研究会議は、今後環太平洋地域で起こりうる大地震に対する防災・健康福祉を主眼においた会議で、ワシントン大学看護学科・グローバルヘルス分野の Sarah Gimbel 准教授の呼びかけで開催されました。東北大学医学系研究科保健学専攻やカトマンズ大学（ネパール）、Alaska Native Tribal Health Consortium（アラスカ、米国）からの研究者や保健関係者が一堂に集結し、今後の震災に対する研究のあり方について検討しました。

会議前日には、ワシントン大学看護学科 Azita Emami 学科長らや東北大学医学系研究科保健学専攻看護学コース 吉沢豊予子教授、緩和ケア看護学分野 青山真帆助教らとともに、東北大学との共同研究における連携・協働体制について話し合いが行われました。

1日目の Summary Presentations by Each Institution では、各国の災害での問題点について発表があり、医学系研究科保健学専攻地域保健学分野の松永篤志助教や中野久美子助手から東日本大震災後の岩手県大槌町フィールド調査の結果や日本の保健師制度について発表がなされました。その後のセッションでは問題解決のための共同体作りについて、活発な意見交換が行われました。

翌日の Facilitated Discussion: Commitment to Next Steps で、マリ助教が当研究所各部門の取り組みを紹介し、参加者の関心が寄せられました。PREP research network speakers では奥山助教が「Establishment of Disaster Health Network to Provide Effective Disaster Health Response and Preparedness」を発表するなど、災害保健分野における多面的な視点の重要性を示すことができました。今後も災害科学国際研究所では、各種学会・シンポジウム等を通して、多くの研究成果を国内外に発信して参ります。



ワシントン大学病院



セッション風景



マリ助教／奥山純子助教



奥山助教の発表